

医療者としてなすべきことを学ぶ

府在宅保健師の会研修会



府在宅保健師の会研修会は、11月11日（木）、府国保連合会で開催され、在宅保健師28名が参加した。

在宅保健師の会の・野会長からの開会挨拶のあと、財団法人 近江兄弟社 ヴォーリス記念病院の細井順ホスピス長は、「死の臨床が紡ぎだすいのち」と題して講演を行った。細井先生は医療者でありながら、病を患い、患者を経験したことから、どのようなスタンスで医療者として従事していくことが望ましいかを説明した。



情報交換会では3つのグループに分かれ、ホスピスなどの緩和ケア、医療者の存在の大きさ、患者との距離感等について講演内容を踏まえながら意見を出し合った。また、来年度以降の補助金の削減により、本研修会の運営方法について個人負担の必要性などの検討を行った。

活発な意見交換がされ、参加者からは「様々な人の体験談が聞けて勉強になった。」「今後も積極的に研修会に参加したい。」等の感想が寄せられた。